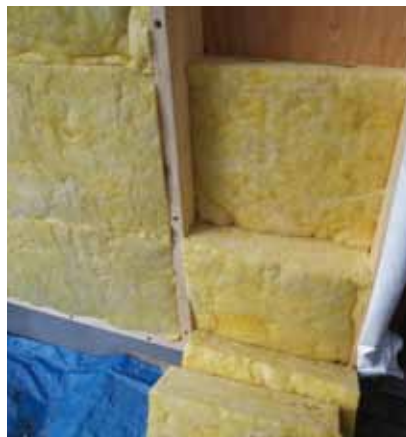


パッシブハウス

川越市のパッシブハウス
構造・完成見学会を開催中

埼玉県川越市では10月にパッシブハウスの完成見学会が開催されている。主催は株式会社夢・建築工房（社長）。7月にはこれに先だって新住協の北関東支部の主催で構造見学会が開催された。この住宅は延床面積123.80平米で熱損失係数（Q値）1平米あたり0.896W/m²K。気密測定は断熱材メーカーの株式会社マダグ・イゾベールが7月16日に行なった。それによると隙間相当面積（C値）で0.15c平米、50Pa時の漏気回数は0.31回/h。6月12日に10人工で上棟。120㎡（約36坪）。吹き抜けつき。構造材のうち9割は県産材。柱は120角。カラマツ集成材は秋田産を用いた。

壁面は90mm2層の180mm。屋根にはラムダ34の120mm3層の

360mmを用いた。通気気密シートはマダグのザバーンを用いた。換気システムにはダイキンのデシカントローターを採用。サッシ（樹脂トリプル真空アルコンガラス）は4寸の躯体の中に入れており、内側には防蟻処理の原液を塗っている。

小金井パッシブハウスでは、総二階建の床面積24坪（12坪+12坪）Q値0.2、気密測定値は0.2、基礎はパフォームガードの100mm、床板と内側にスタイロフォームATの100mm、外壁はラムダ34の充填120mm、外に付加断熱120mm。屋根は120の4層で480mmの断熱である。サッシはガデリウスの木製トリプル。枠の周囲は10mm、15mmを入れてウルトジャパンのパッキンを入れている。木製サッシの一部はからくさなしで一枚ものの板金でとめるのでベイスギ38mmを建具屋に斜めに裂いてもらって打っている。

なお、パッシブハウスでは湿気対策が課題で、当初はジェイベックの第1種換気システムの顕熱タイプを導入したが、湿気がこもりむしむしすることから、湿気も回収するタイプのものに変えて生活している。2階に14畳に東芝の大世界（ドラゴンコンプレッサタイプ）。現在エア

コンは24時間つけっぱなしである。営業スタイルとしては、特に営業に力を入れているというのではなく、お客さんが自分でハウスメーカーを回り、あるいは組合を通して高性能な家を探しており、C値は1.0以下、できれば0.5以下という、こだわりの持ったお客さんが訪ねてくる。お客さんの方から来てくれるということが多いという。

同社は5年前にQ1住宅でショールームを建てて以来、お客さんが一人来るとそのまま決まってしまうということが多いという。いわゆるQ1住宅で33坪、35坪といった坪数の家が多く、価格としてはQ値1.0で坪60万円から坪70万円ほどが本体価格。解体、外構工事などの付帯工事を含めると総額2500万円ほどになるケースが多い。さらにこだわってパッシブハウスの性能や海外のサッシなどを導入すると坪80万円から坪100万円ほどとなり、付帯工事を含めて総額3500万円ほどになるケースが多いという。

パッシブハウスのレベルの住宅は今回で3棟目。また、200mm断熱の家の工事を行う予定である。